

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(サウジアラビア:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html>)

マイライブラリー:0267

(注)本稿は 2013 年 5 月 14 日から 6 月 11 日まで 7 回にわたり「アラビア半島定点観測」に連載したレポートをまとめたものです。

2013.6.11

前田 高行

(サウジ王室レポート)王族の勢力図に地殻変動の兆し

目次	頁
1. ナイフ皇太子死去に始まった新旧世代交代の波	1
2. 驚きのムクリン王子第二副首相就任	2
3. スデイリ・セブンの明暗:ファハド家、スルタン家の凋落とナイフ家の興隆	4
4. 父親存命中の勢力拡大を目指すアブダッラー国王の息子たち	6
5. ファイサル家は静観の構え?	7
6. 王位継承はどうなるのか?	8

1. ナイフ皇太子死去に始まった新旧世代交代の波

サウジアラビアでは昨年 6 月から 1 年足らずの間にかつてないほど多くの王室関連ニュースが報じられた。6 月 17 日にはわずか 8 カ月前にスルタン皇太子の死去を受けて新皇太子に即位したばかりのナイフが亡くなり¹、2 日後に実弟のサルマン国防相兼第二副首相が新しい皇太子に指名された²。その後しばらく第二副首相ポストは空位のままであったが、今年 2 月に初代国王の 35 男で国王、皇太子の異母弟ムクリン王子を第二副首相に任命する勅令が発令された³。

この二つの重要な勅令が発令された 8 カ月の間にも王族にかかわるニュースが次々と伝えられている。ナイフの死後、後任の内相に任命されたアハマド(スデイリ・セブンの一人でナイフ実弟)がわずか 4 カ月でナイフの息子ムハンマド内務副大臣に大臣ポストを譲って引退した⁴。州知事についてもリヤド、マッカと並ぶサウジ三大州の一つである東部州知事がファハド前国王の息子ムハンマドから故ナイフ前皇太子の息子サウド王子に、またマディナ州知事はアブドルアジズ王子(初代国王 27 男マジド王子の子息)からサルマン皇太子の子息ファイサル王子に交代した(共に今年 1 月)⁵。

その他故スルタン元国防相の息子のハリド国防省副大臣が辞め、後任にはサウド家の外戚のファハド王子が任命されている(今年 4 月)⁶。また中央情報局次官のアブドルアジズ・ビン・バンドル王子が昨年 10 月辞任している(後任は非王族)⁷。

これら辞任或いは交代のニュースに隠れて目立たなかったが、アブダッラー国王の異父弟バドル王子(初代国王 20 男)⁸やサッターム王子(同 30 男)が亡くなっており、第二世代の王族が次々と舞台から消えつつある⁹。アブダッラー国王自身も椎間板ヘルニアに悩まされ¹⁰外国公賓を車椅子で接見するなど肉体の衰えは隠せない。また第三世代ではあるが今や 72 歳のサウド外相も昨年 8 月には何度目かの手術を受けている¹¹。このようにサウド家の王子たちは第二世代(初代国王の子息)の若返り、或いは第三世代(初代国王の孫)へのバトンタッチが続出する状況である。

その若返り、世代交代のドラマの中でこれまで隆盛を誇ってきたステイリ・セブナー族にも落日が明らかな家系(ファハド家、スルタン家)と生き残りをかける家系(ナイフ家、サルマン家)に明暗が分かれつつある。さらにアブダッラー国王の息子たちは残り少ない父王の在位中に将来の権力基盤を築こうと暗躍している。そしてムクリン王子が第二副首相の地位を得たことでこれまで冷や飯を食っていた王子たちも権力の中枢に食い込むチャンスをうかがっていることは間違いないであろう。

ごく常識的に見れば今後数年(長くとも 10 年)以内に国王はアブダッラーからサルマンに移るであろう。但し 2 年足らずの間にサルマンの実兄である二人の皇太子が亡くなるという異常事態が続き、「二度あることは三度ある」、即ち病気を抱えたサルマンがアブダッラーよりも先に亡くなるという可能性がないとは言えない。サルマンの次はムクリン第二副首相であるとしても彼とて今年 70 歳である。国王に即位するとしてその時果たして彼は何歳になっているであろう。

サウド家の国王レースは混とんとしている。衆目が一致する国王候補はサルマンだけであるが、彼を含め国民に人気があり国王として囑望される王子は見当たらない。コンセンサスを重んじ個人的に突出することを嫌う部族社会のサウジアラビアでは第三世代の誰かが自ら国王候補に名乗りでるとは考えにくい。むしろ国王と言う最高ポストよりも有力な権力基盤を確保することにより来るべき世代交代にむけて勢力を温存したいと考えている第三世代が多いのではなかろうか。

本稿ではこれまで権力の中枢にいた有力家系について今後の消長を推察してみるつもりである。サウド家内部は厚いベールに覆われており情報は極めて少ない。部外者の予想外の結果になることもあろうが(最近のムクリン王子の第二副首相起用もまさにその一例である)、一つの観測記事として読んでいただきたい。

2. 驚きのムクリン王子第二副首相就任



ムクリン王子は 1945 年生まれでアブドルアジズ初代国王の 36 人の息子のうちの 35 番目で母親はイエメン出身のバラカ妃である。36 番目の王子が 1994 年に亡くなっているため存命する第二世代の中では最年少の王子となる(写真左)。

* 家系図「アブドルアジズ初代国王の王妃とその息子たち」参照

彼は英国で戦闘機のパイロット訓練を受け 1964 年にサウジ空軍に入隊、その後ハイール州知事、マディナ州知事を経て 2005 年に中央情報局長官に就任したが、昨年 7 月にスルタン元皇太子の息子バンドル王子(国家安全委員会事務局長、元駐米大使)と交代した¹²。

この時ムクリン王子は国王顧問と言う肩書を得たが、その具体的な職責が明確でなかったため、彼はこのまま表舞台から消えるのではないかと見られた。彼は第二世代の王子の中でも第五代国王ファハドを長兄とするステイリ・セブンやアブダッラー現国王に比べ脚光を浴びることは少なかった。それはステイリ・セブンやアブダッラーの母親がサウジアラビア国内の有力部族の娘であったのに比べムクリン王子の母親がイエメン出身だったことが大きな理由であった。第二世代の兄弟の数が 36 人ともなると異母兄弟の間にも格差が生じる。それが母親の出自であり、イエメン出身の母親を持つムクリンは部が悪い。つまり父親が同じ異母兄弟の間では母親の氏素性が格差の要因になる。このことは本人も周囲も、そして外国のサウジ王室ウォッチャー(観測者)も同じ考えであった。

ムクリンは初代国王の息子としてエリートコースを歩き中央情報局長官になったが、誰しもそれが彼の「最終の(上がりの)ポスト」と見た。だから長官の職を離れて半年以上経った今年 2 月、彼を第二副首相に指名したとの発表に欧米メディアは耳を疑ったのである¹³。国王が首相を、皇太子が副首相を務めるサウジアラビアでは第二副首相は No.3 のポストである。そして第二副首相は次期皇太子の椅子が約束されたポストであり、いずれ彼が国王になるであろうことを世間に知らしめたことを意味するのである。これはまた第二世代最後の王子である彼の後釜は間違いなく第三世代になることを意味している。長幼の序を重んじるベドウィンの部族社会では異母兄が彼にとってかわることは考えられないからである。

彼はなぜ第二副首相になることができたのか？そこにはサウド家内部の複雑な力学が働いていると思われる。サウジアラビアの王位継承問題についてはこれまでも幾度となく第三世代へのバトンタッチが話題になり、ステイリ・セブン一族、ファイサル家、アブダッラー家など有力系統の王子の名前が取りざたされてきたが決定的な候補者に絞り切れていない。カタール、バハレーン、アブ・ダビ、ドバイなど周辺の GCC 各国では現首長(または国王)の息子が皇太子となり将来にわたって直系男子(通常は長男)が王(首長)位を継承するルールが確立している。そのような継承ルールが確立する以前の GCC 各国ではお家騒動が当たり前のように起こっていた。ごく最近のクウェイト第 10 代アハムド首長の後継をめぐるサバーハ家ジャービル系とサーリム系の対立事件は記憶に新しい¹⁴。

しかしサウジアラビアでは第二代サウド国王以降現在のアブダッラー第 6 代国王まで第二世代が王位を継承し、今後もサルマン皇太子そしてムクリン王子に至るまで兄弟間で継承される見通しとなった。第三世代の国王が誕生するのは 10 年前後先のことになりそうである。そのような事態になれば現在一線で活躍している第三世代の王子たちは既にかかなりの年齢に達しているため無名の若い王子が国王になる可能性が少くない。現役の政府高官を務める第三世代王子たちの間に動揺が広がっている。

3. スデイリ・セブンの明暗: ファハド家、スルタン家の凋落とナイフ家の興隆

スデイリ・セブンとは初代国王に嫁いだスデイリ家ハッサ王妃が生んだ7人の男児のことである(*)。長男のファハドは第五代国王として1982年から2005年までサウジアラビアを牛耳ってきた。そしてファハドのもとで次男スルタンが国防相、四男ナイフが内務相、さらに六男サルマン(現皇太子、第一副首相兼国防相)がリヤド州知事として数十年にわたり国家の中枢ポストを押さえてきた。

(*)「アブドルアジズ初代国王の王妃とその子息たち」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-3b.pdf>

しかしスルタンとナイフは皇太子に上り詰め国王を目前にしながら一昨年と昨年相次いで亡くなった。スデイリ・セブンの威光にも翳りが生じ、彼らが築き上げた勢力は息子たち第三世代に引き継がれようとしている。但しその動静を仔細に見比べると勢力を温存或いは拡大した一族がある一方、父親の地盤を失いつつある一族もある。ごく大雑把に言えばファハド及びスルタンの一族は没落しつつあり、ナイフの息子たちは勢力を拡大しつつあると言えよう。そしてサルマンの息子は父親の皇太子(さらには将来の国王)の在位中に有力な官位を得ようと画策しているようである。以下、ファハド家、スルタン家、ナイフ家及びサルマン家と呼ぶことにして、各家系の最近の動きを見てみよう。

まずファハド家については、リーダーと目されるムハンマド王子が1997年から務めた東部州知事を今年1月退任した。後任は故ナイフ前皇太子の息子サウド王子である¹⁵。東部州は首都リヤド州、聖地のあるマッカ州と並ぶ三大州の一つであり、サウジアラビアの経済を支える油田地帯をカバーしている。と同時に東部州は多数のシーア派住民がしばしば騒乱を引き起こす問題州でもあり治安維持は知事の重要な職責である。今回ナイフ元内相の息子が跡を継いだことがその事情を物語っていると言えよう。

(*)「故ファハド前国王家系図」(<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-8.pdf>) 参照。

ファハド家にはムハンマドの他に現職閣僚級としてアブドルアジズ国務相(無任所)、青年福祉庁長官スルタンの異母兄弟がいる。アブドルアジズはファハドが溺愛し、30歳前の若さで大臣に取り立てた経緯があるが、未だに無冠の大臣であることから、彼が現内閣のもとで完全に浮いていることがうかがえる。今回のムハンマド州知事の退任と重ね合わせると、アブダッラー国王はファハド家からシーア派対策が主眼である東部州知事のポストを取り上げ、名前だけの国務相であるアブドルアジズを残したと見るのが妥当であろう。

スルタン家はどうであろうか。スルタン家の牙城は国防省であった。スルタンは1962年に国防相に就任して以来亡くなるまでの50年近くそのポストを手放さなかった。その間に彼の長男ハーリドを国防副大臣に引き上げた。しかし今年4月ハーリドはサウド家外戚のファハド王子と交代した¹⁶。後ほど述べるがファハド王子は実はアブダッラー家と関係が深い。現在の国防相はサルマン皇太子であり、今回の人事にサルマンの意向が反映されていることは間違いない。このことから筆者は国王と皇太子が一致してスルタン家を国防省から遠ざけたと見る¹⁷。

スルタン家に残されたポストは昨年7月、中央情報局長官に抜擢されたバンドル王子である。バンドルは駐米大使を長く務め、サウド外相の義理の弟(サウドの妹婿)でもあるため、諜報機関のトップはうつつ

けとも言えよう。このポストはかつてサウド外相の実弟トルキ王子或いは今回第二副首相に抜擢されたムクリン王子が務めている。前任者二人を見る限り中央情報局長官のポストが将来のさらなる高官を約束するものかどうか判断は難しく、バンドルの今後は目が離せない。

(*)「スルタン元皇太子家系図」<http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-5.pdf> 参照。



ファハド、スルタン両家が凋落傾向にあるのに対し、興隆の兆しが見えるのがナイフ家である。故ナイフ前皇太子は 1975 年に内務大臣に就任した後は昨年 6 月亡くなるまでそのポストを手離さず、その間に末弟のアハマドを腹心に据えつつ次男ムハンマド(写真)を自分の手元で副大臣に引き上げ、一方で東部州の副知事に長男サウドを送り込んだのである。そしてナイフの死後の昨年 11 月にムハンマドは内相に昇格¹⁸、サウドも今年 1 月

東部州知事に任命された¹⁹。

*「ナイフ家系図」参照。<http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-6.pdf>

* 2012 年 11 月 12 日付け「(ニュース解説)内務省はナイフ家のものか？」参照。

<http://members3jcom.home.ne.jp/3632asdm/0247SaudiInteriorMinister.pdf>

内務省は国内治安の総元締めでありナイフはタカ派としてサウド家体制を脅かす勢力に対して強硬姿勢を貫いた。サウジアラビアにあって体制を脅かす勢力とは民主改革勢力ではなくイスラム原理主義者であり或いはシーア派である。イスラム原理主義者はイエメンで活動する「アラビア半島のアルカイダ(AQAP)」の訓練を受けたジハード(聖戦)戦士が同国西部のジェッダなど紅海沿岸に出没し、都市での爆弾テロを行い、ナイフ一家はイスラム過激派の標的になった。事実、ナイフが外国療養中の 2009 年 8 月のラマダン月、父親の代理として自宅で市民の挨拶を受けていたムハンマドが、市民に紛れ込んだ自爆犯により危うく一命を落とすという事件もあったほどである²⁰。

一方、ペルシャ湾沿岸の東部州では、多数のシーア派住民がサウジ政府による差別政策に抵抗して反政府デモを繰り返しており、その背後にはイランの影が見え隠れするのである。ナイフが長男サウドを東部州に送り込み、次男ムハンマドを内務省に入省させたのはそのような事情があったからである。

2011 年、MENA 全域に吹き荒れた「アラブの春」は隣国のイエメン及びバハレーンの体制を揺るがし、イエメンではサレハ独裁政権が倒れた。サウジアラビアと同じスンニ派王制国家のバハレーンでも激しい反政府デモが発生、サウジアラビアは UAE と共に GCC 同盟軍「半島の盾」を派遣しハリーファ王家の崩壊を何とか食い止めた²¹。両国の騒乱の影響はサウジ国内にも波及し、ジェッダ或いは東部地区で騒擾事件が発生したことは上に述べたとおりである。今や国内の治安安定はサウド家最大の政治問題であり、その結果、ナイフ家のこれまでの実績が見直されナイフの息子たちが重要ポストに登用されていると言えよう。

次にサルマン家を見てみよう。ステイリ・セブンの六男サルマン皇太子兼国防相とその息子たちはスルタン家及びナイフ家と若干色合いが異なる。サルマンは半世紀近くリヤド州知事を務めたが、その間息子を

側近に据えようとした気配がなく息子たちの官職登用に余り熱心ではなかった。彼は州知事在任中、兄のファハド、スルタン或いはナイフがスイスやニューヨークなどで外国治療に出掛けると、彼らに付き添って長期間公務を留守にすることがしばしばであった。極端に言えば彼は兄たちの腰巾着に終始していたのである。国内にいる時も慈善家としての活動に精力を注ぎ、一時期リヤド市内で頻発した爆弾テロ事件に対しても陣頭指揮は兄のナイフ内相(当時)に任せっぱなしであった。首都の知事として普通ならその能力を問われるところであるが、兄たちの支えで責任を取らずにすんだと言えよう。

*「サルマン家系図」参照。<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-7.pdf>

*2012年7月18日付け「中東VIP劇場:タナボタで皇太子になったサルマン王子」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0232SaudiCrownPrinceSalman.pdf>

そのサルマンがスルタンの死で国防相となり、さらにナイフの死で皇太子になった。サルマンの息子たちのうち既に官職についていたのは石油省次官のアブドラジズ王子(四男)、サウジ最高観光委員会総裁のスルタン王子(二男)の二人だけであるが、スルタン及びナイフの息子(即ち従兄弟)たちに比べ官位も高くなかった。しかしサルマンが皇太子兼国防相になった後、息子たちは父親の後押しで一斉に政府の要職を狙い始めた。

例えば七男ムハンマド王子は国防相顧問として父親の補佐役に収まり、さらに今年1月には六男ファイサル王子がマディナ州知事に任命されている²²。スルタン最高観光委員会総裁やアブドラジズ石油省次官なども更なる高位の官職を狙っているようである。サルマン一家はサウジアラビアの有力メディア複合企業のSRMGのオーナーであり、リヤド州知事時代のサルマンの一挙手一投足を仔細に取り上げていたが、最近ではこれら息子たちの動静を事細かに報道している。メディアを握っていることが他の王族に対するサルマン家の強味である。高齢のサルマンに残された日々は長くない。彼の息子たちは生き残りの最後のチャンスに賭けている。

4. 父親存命中の勢力拡大を目指すアブダッラー国王の息子たち

先月末、アブダッラー国王は休暇のためモロッコに向かった。一昨年のニューヨークでの椎間板ヘルニアの手術後も帰国までの一時期、療養のため同国に滞在しておりモロッコは彼のお気に入りの国である。1923年生まれで今年90歳になるアブダッラー国王はファハド前国王以下スルタン皇太子に至るステイリ兄弟がいずれも心臓、癌の内臓疾患或いは脳梗塞を抱え、スルタン、ナイフなどの年下の義弟が先に亡くなったことに比べ比較的頑健であるが、昨年11月にもリヤドの病院で手術を受けるなど持病の腰痛が好転する兆しは無く、車椅子で外国の要人を接見する姿が報じられている。生前に王位を皇太子に譲位する動きは無いが、年齢を考えると残された年月が少ないことは誰の目にも明らかである。

ファハド前国王時代にステイリ兄弟が政府の要職を独占し、息子たちを次々と登用してきた事実を目の当たりにしてきたアブダッラーは自分の息子の登用に余り執着せず、ただ国王自身が育て上げた国家警備隊(National Guard)に早くから三男ムッテーブ王子を呼び入れ、副司令官を経て2010年には司令官に任命したことが目立つ程度であった。

しかし最近になり彼の息子たちは次々と要職に就きはじめた。四男アブドラアジズが外務副大臣に就任(2011年)、六男ミシャル王子はナジュラン州知事に、また七男トルキ王子は今年2月にリヤド州副知事に任命されている²³。身内の登用は息子に限らず娘婿やその兄弟にも及んでいる。アブダッラーが首相を務める現内閣の教育相ファイサル王子は息女アディーラの夫である。ファイサル王子は初代国王アブドラアジズの弟ムハンマド殿下の孫であり、従って国王の息子たちと同じ世代である。因みにアディーラ王女はジェッダ商工会議所の女性部会長であり、サウド家の中では数少ない活動的な女性王族である。そして今年4月、国防省副大臣がスルタンの息子ハリドからファハド王子に交代した²⁴。ファハド王子はファイサル教育相の弟であり、彼がアブダッラー一族に属すると見て差し支えないであろう。また先月国家警備隊が省に昇格し、ハリド司令官は国家警備大臣(Minister of National Guard、日本名は仮称)となった²⁵。

*「アブダッラー国王家々系図」参照。<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-4.pdf>

これら一連の人事を俯瞰するとアブダッラー国王と息子たちの大きな野望が垣間見える。それは国防省と国家警備省と言う二大軍事組織を合わせて統括し、加えて首都リヤド州をアブダッラー一家の支配下に置こうとする意図である。現在の国防相はサルマン皇太子であり、またリヤド州知事も彼が長く務めてきたものである。従ってここには国防省におけるスルタン家の影響力を排除しようとするアブダッラーとサルマンの共存共栄の関係が見て取れる。但しこの関係はアブダッラー側が息子を含めたものであるのに対して、サルマン側は彼一人だけである。先にも書いたとおりサルマンは息子の登用に積極的に取り組まなかったためである。サルマンの息子たちは現在獵官運動に躍起になっており、今後国防省とリヤド州で勢力を築くことができるかどうか未知数である。

アブダッラー国王とその息子たちは軍事力を掌握し、首都リヤドを支配下に置くつもりであろう。そしてナイフ家に内務相と東部州知事ポストを与えることにより、シーア派對策の治安維持を任せ、アブダッラー家とナイフ家の二大派閥でサウジアラビアを統治しようとする意図がうかがえるのである。

5. ファイサル家は静観の構え？

ファイサル家は第三代ファイサル国王の遺児とその子孫たち一族である。ファイサル国王は父のアブドラアジズ初代国王がリヤドで蜂起した直後の1904年に生まれている。アブドラアジズがアラビア半島をほぼ制圧した1920年代に生まれた異母弟のアブダッラー国王とはかなりの年齢差があるため、ファイサルの息子たちの第三世代もサウド外相のように老齢に達している者が多い。子孫も既に第六世代まで生まれている。

(*)「ファイサル家々系図」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-9AlFaisalFamily.pdf>

ファイサル家は他の王族が名前の最後にサウド家の一族であることを示す「Al-Saud」を冠しているのに対して唯一「ファイサル家」を意味する Al-Faisal を名乗っている。例えばサウド外相の従兄弟でアブダッラー国王の息子ムッテブ国家警備相の正式呼称は「Prince Mitteb Bin Abdullah Bin Abdulaziz Al-Saud」であるが、サウド外相のそれは「Prince Saud Al-Faisal」と短い。ファイサル国王の長男故アブダッラー王子は早くから実業界に転身し Al-Faisaliah グループを創設、同グループはソニー製品の総代理店であるなどサ

ウジアラビア有数の企業集団に成長している²⁶。このようにファイサル家はステイリ・セブンなどの他の王族たちと比べサウド家の中では異色の存在である。

ファイサル家一族の中で有名な王子は1975年から40年近く外相の地位にあるサウド及び2007年にマッカ州知事に就任しているハーリドである。因みにアブダッラー、サウド及びハーリドの三人は母親が異なる異母兄弟である。またサウド外相の実弟トルキ王子は2001年まで中央情報局長官を務めたのち、2002年から2005年まで駐英大使となり、その後駐米大使に転身した。但し駐米大使はわずか1年半で辞め、2007年以降は公職に就かず評論家として活躍している。

ファイサル第三代国王は明君の誉れが高く、また女性の権利向上にも理解があったと言われ(但し当時としては時期尚早であったが)、王妃たちも王子の教育に熱心であった。このためサウド外相をはじめファイサルの息子たちは押し並べて優秀と言われる。しかしステイリセブンが内政・外交を牛耳った時代は、ファハド(国王)ースルタン(国防相)ーナイフ(内相)ーサルマン(リヤド州知事)がサウジアラビアの内政と外交を壟断し、サウドは外相でありながら対米外交では当時駐米大使であったバンドル(スルタンの息子)の専横を許す悲哀を味わっている。悲哀を味わったという意味では当時皇太子であったアブダッラーも同じであり、国防・治安などの重要問題の決定権はファハドースルタンーナイフのラインに握られていた。

同じような立場に立たされたことでアブダッラーとサウドは結びつきを強めたようであり、外相ポストをないがしろにされ嫌気のさしたサウドが辞意を漏らした時、アブダッラーは彼を引きとめたと言われる²⁷。その後、アブダッラーが国王になるとサウド外相は再び精力的に外交活動をこなしている。義兄のハーリド王子も閣僚級ポストと言われるマッカ州知事に任命されていることと合わせ、アブダッラー家とファイサル家が手を組んでステイリ一族の対抗勢力を形成しているという見方もできよう。

但し現状を見る限りファイサル家があからさまに勢力拡大を目指しているようには見えない。それはファイサル家の王子たちは国王の交代によりサウド家内部の勢力図がガラッと変わる事実を目の当たりにしてきたからかもしれない。老い先短いアブダッラー国王及び彼の息子たちとべったりすることの危険性を予知しているようですらある。ファイサル家は静観の構えである。

6.王位継承はどうなるのか？

本稿ではサウド王家の王位継承問題で従来から有力視されてきたファハド家、スルタン家、ナイフ家、サルマン家のステイリ・セブン系統並びにアブダッラー現国王家とファイサル家の6家系を取り上げた。そしてこのうちファハド家及びスルタン家は凋落傾向にあり、ナイフ家とアブダッラー家が勢力を伸ばしつつあると評価した。

今後よほどのことがない限り次期国王はサルマン皇太子であり、その時にはムクリン第二副首相が新皇太子に任命されるであろう。但しスルタン、ナイフがいずれも皇太子在位中に急逝するという予想外の事態が発生した。また王族の中には第二副首相ポストが必ずしも次期皇太子を保証するものではないと主張する王子もいる。今後サルマン、ムクリンが順当にサウド家後継者の地位を引き継ぐかは予断を許さない。

しかもこの兩名については若干気になることがある。それは最近の情報を見る限り兩名の露出頻度が少ないことである。筆者は有力英字紙 Arab News(インターネット版)を毎日チェックし、また折に触れてサウジ王室関連の欧米ニュースをフォローしているのであるが、サルマンについては皇太子としての外国賓客の接遇、或いは国防相としての軍事視察や軍幹部との会議の様子が殆ど流れてこない。リヤド州知事時代、ほぼ毎日 Arab News に登場していたことに比べその落差が甚だしいのである。Arab News の会長がサルマンの息子であることを考えれば極めて奇異に感じられる。もっとも同紙の筆頭株主はアラブのメディア王と言われる大富豪のアルワリード王子であり、そのあたりにも何か理由が潜んでいるのかもしれない。

さらにムクリン第二副首相に至ってはその動静が全く伝わってこない。過去の例を見るとファハド、アブダッラー、スルタンは内務相、国家警備隊司令官或いは国防相など重要閣僚であった時に第二副首相を兼務している。それに比べムクリンは中央情報局長官を辞して半年後、閣僚ポストも持たないまま突然第二副首相に就任している。特定の省庁を持たないだけに日頃の動静が伝わりにくいのであろうが、それにしても国王や皇太子の代理として外国からの賓客をもてなす姿がメディアに表れてもおかしくないはずである。今のムクリンを見る限り国王或いは皇太子に万一のことがあった場合のための当座しのぎの「あて馬」とすら映るのである。

もう一つ気になることは後継者を決める「忠誠委員会」である。これはアブダッラー国王が 2007 年に設立したものであり、彼の死後スルタン皇太子(当時)が国王に即位する時、次期皇太子選任を目的として設立されたサウド家の私的諮問機関である。委員はアブドルアジズ初代国王の 36 人の男子王族の家系から一名ずつ選ばれている(*)。

(*) 図「初代国王の子息と忠誠委員会メンバー」<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-3a.pdf> 参照。

忠誠委員会はスルタン皇太子が死去した 2011 年に次期皇太子ナイフの選任に関与した²⁸。しかし翌年ナイフが亡くなり、サルマン皇太子が誕生した時には忠誠委員会が開かれたという公式発表は一切なかった。もともと忠誠委員会は国王が死去し皇太子が国王に即位したときの次期皇太子選任を念頭に置いたものであり、さらにわずか一年も待たずに皇太子が相次いで亡くなるという事態を予想していなかった。そのためにサルマン皇太子は国王と一部の王族だけで決めたとと思われる。

さらに忠誠委員会のメンバーのうち過去 1 年余の間にナイフ、マジド、サッタームなど第二世代の王子が相次いで亡くなったが、その後任は明らかにされていない。忠誠委員会がサウド家の私的諮問機関であるため後任者を公表する必要がないという理屈も成り立つが、むしろ忠誠委員会が正常に機能していないと見た方が良いのではなかろうか。

サウジアラビアは統治基本法により王位継承権者は「アブドルアジズ初代国王の直系の男子王族」と決められている。現在第三世代の王子は総勢 250 人を超えており彼らは有力家系であるか否かにかかわらず王位継承権を有している。これらの王子たちの中に誰しもが認める国王候補がいるわけではなく、250 人

が総すくみの状態と言っても良く第二世代のステイリセブンのような有力な一群はいない。

そもそもステイリセブンは初代国王の息子 36 人中の 7 人の同母兄弟である。多数の兄弟がある場合、母親を同じくする同母兄弟が結束し、他の異母兄弟と対立するという図式は洋の東西を問わない。ステイリ兄弟の結束は一代限りであり、彼らの息子たちの間でも同母兄弟と異母兄弟間で対立するのである。事実ファハド国王の子息であるムハンマド前東部州知事とアブドルアジズ国務相が父王の遺産相続をめぐり対立したことは有名である。ファハド家一族の勢力が凋落しているのはこのような内部分裂のためと言えよう。

第三世代の王子たちは血縁関係のみならず利害関係でも複雑な関係である。将来の国王の座或いは有力ポストをめぐりサウジア国内部で今後どのような駆け引きが展開されるのか部外者には全く推測できない。今後も日々の細かな動きを追っていく他はないであろう。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

-
- ¹ Arab News on 2012/6/17, 'Crown Prince Naif has died'
<http://www.arabnews.com/saudi-arabia/crown-prince-naif-has-died>
 - ² Arab News on 2012/6/19, 'Prince Salman named Crown prince, deputy premier'
<http://www.arabnews.com/prince-salman-named-crown-prince-deputy-premier>
 - ³ Arab News on 2013.2.2, 'Prince Muqrin appointed second deputy premier'
<http://www.arabnews.com/%D9%8Droyal-order-appointing-prince-miqren-second-deputy-premier>
 - ⁴ Arab News on 2012/11/6, 'King appoints Prince Muhammad as new interior minister'
<http://www.arabnews.com/king-appoints-prince-muhammad-new-interior-minister>
 - ⁵ Saudi Gazette on 2013.1.15, 'New Emirs of EP, Madinah pledge to serve citizens'
<http://www.saudigazette.com.sa/index.cfm?method=home.regcon&contentid=20130115149311>
 - ⁶ Arab News on 2013.4.21, 'Fahd bin Abdullah new deputy defense minister'
<http://www.arabnews.com/news/448866>
 - ⁷ Arab News on 2012.10.6, 'Prince Abdulaziz bin Bandar relieved of his post'
<http://www.arabnews.com/prince-abdulaziz-bin-bandar-relieved-his-post>
 - ⁸ Arab News on 2013.2.13, 'Prince Sattam's passing leaves void in Kingdom'
<http://www.arabnews.com/riyadh-gov-prince-sattam-passes-away>
 - ⁹ Arab News on 2013.4.2, 'Prince Badr mourned'
<http://www.arabnews.com/news/446728>
 - ¹⁰ Arab News on 2012/11/13, 'King to undergo back surgery next week'

<http://www.arabnews.com/king-undergo-back-surgery-next-week>

¹¹ Arab News on 2012/8/12, 'Prince Saud Al-Faisal undergoes successful minor surgery'

<http://www.arabnews.com/node/420607>

¹² Saudi Gazette on 2012/7/20, 'Bandar named intelligence chief, Muqrin appointed adviser to King'

<http://www.saudigazette.com.sa/index.cfm?method=home.regcon&contentid=20120720130491>

¹³ Arab News on 2013.2.2, 'Prince Muqrin appointed second deputy premier'

<http://www.arabnews.com/%D9%8Droyal-order-appointing-prince-miqren-second-deputy-premier>

¹⁴ 拙稿「クウェート首長家の勢力変化と今後のクウェートの民主化」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/A58DemocracyInKuwait.pdf>

¹⁵ Saudi Gazette on 2013.1.15, 'New Emirs of EP, Madinah pledge to serve citizens'

<http://www.saudigazette.com.sa/index.cfm?method=home.regcon&contentid=20130115149311>

¹⁶ Arab News on 2013.4.21, 'Fahd bin Abdullah new deputy defense minister'

<http://www.arabnews.com/news/448866>

¹⁷ 2011.11.17 付け拙稿「(ニュース解説)振り出しに戻ったサウド家の後継者問題—4.国防相は誰のもの?」参照。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0207SalmanDefenceMinister.pdf>

¹⁸ Arab News on 2012/11/6, 'King appoints Prince Muhammad as new interior minister'

<http://www.arabnews.com/king-appoints-prince-muhammad-new-interior-minister>

¹⁹ Saudi Gazette on 2013.1.15, 'New Emirs of EP, Madinah pledge to serve citizens'

<http://www.saudigazette.com.sa/index.cfm?method=home.regcon&contentid=20130115149311>

²⁰ Arab News on 2009.8.28, 'Prince Muhammad escapes assassination attempt'

<http://www.arabnews.com/?page=1§ion=0&article=125881&d=28&m=8&y=2009>

²¹ Arab News on 2011.3.15, 'Kingdom takes lead to help Bahrain'

<http://arabnews.com/middleeast/article317215.ece>

²² Saudi Gazette on 2013.1.15, 'New Emirs of EP, Madinah pledge to serve citizens'

<http://www.saudigazette.com.sa/index.cfm?method=home.regcon&contentid=20130115149311>

²³ Arab News on 2013.2.15, 'Khaled appointed Riyadh governor, Turki his deputy'

<http://www.arabnews.com/khaled-appointed-riyadh-governor-turki-his-deputy>

²⁴ Arab News on 2013.4.21, 'Fahd bin Abdullah new deputy defense minister'

<http://www.arabnews.com/news/448866>

²⁵ Arab News on 2013.5.28, 'Prince Miteb appointed Minister of National Guard'

<http://www.arabnews.com/news/453074>

²⁶ 「サウジアラビアの財閥：アル・ファイサリア・グループ」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/A28AlFaisaliahGroup.pdf>

²⁷ 「辞めさせてもらえないサウジアラビアのサウド外相とナイミ石油相」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0154SaudNaimi.pdf>

²⁸ 201110.24 付「サウジアラビア皇太子の死去と後継者選定について」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0203SultanDeathNews.pdf>